

# press release

2014年3月7日

(本資料は、2014年3月5日にロンドンで発表されたプレスリリースの参考訳です)

## スタンダードチャータードPLC2013年度決算 厳しい市場環境により、収益・税引き前利益共に減少

### 将来の成長と資本増強に向けた重要な対応策を発表

#### 2013年度業績ハイライト

- 営業収益(除く自己クレジット調整分<sup>1)</sup>)は前年比1%減の186億7,100万米ドルを計上(2012年度は187億8,300万米ドル)で、2013年12月に発表した業績予想の範囲内
- 25市場で1億米ドル超の収益、17市場で1億米ドル超の税引き前利益を計上
- 自己クレジット調整・営業権(のれん代)コスト・米国当局との和解金を除外する前の税引き前利益は、7%減の69億5,800万米ドル<sup>2</sup>を計上(2012年度は75億1,800万米ドル<sup>3</sup>)
- 顧客取引は引き続き活発で、顧客収益は4%増、顧客向け貸付金は4%増、顧客預金は2%増を記録
- バーゼルIIに基づくコア Tier 1 自己資本比率は、2013年下半期に40ベースポイント上昇して、11.8%へ(2012年度は11.7%)
- 1株当たり配当額は2%増の86セント
- 調整後のROE(株主資本利益率)は11.2%(2012年度は12.8%)

注<sup>1)</sup> 自己クレジット調整(OCA)は、国際財務報告基準=IFRSの公正価格測定(FVM)ルールに基づいて、貸借対照表の負債側の自己クレジットリスクを調整した数値。FVMルール(IFRS第13号)は、企業に償却原価ではなく公正価格による開示を認めています。

注<sup>2)</sup> OCA、韓国における営業権コスト、および米国当局との和解金は本プレスリリースで引用するすべての決算数字から除外しています。

注<sup>3)</sup> 2012年度数値は改定値です。

スタンダードチャータードPLC(本社:ロンドン、最高経営責任者:ピーター・サンズ)は、3月5日付で、2013年度決算を発表しました。2013年度は、当行グループと金融業界の双方にとって、厳しい1年となりました。当行の業績は、利鞘・スプレッドの縮小、金融市場の大幅変動、依然として低迷する韓国での業績による影響を受けました。その結果、2013年度の収益は前年比1%減の186億7,100万米ドル、税引き前利益は7%減の69億5,800万米ドルとなりました。

当行グループは引き続き顧客との関係強化に努めた結果、年間を通して取引量の拡大を実現しました。貿易金融・キャッシュ・FXオプションの取扱高はそれぞれ21%、11%、37%の増加となりました。当行グループは今後もバランスシートの持続的拡大を目指します。その重要な営業拠点があるアジア・アフリカ・中東地域の魅力は長期的に増すと確信しています。

当行グループの自己資本は、バーゼルIIIに基づくコアTier 1自己資本比率が11.8%、バーゼルIIIに基づく普通株式等Tier 1比率が10.9%と盤石です。これらの自己資本比率は、将来、自己資本比率規制が強化されても十分に対応が可能な水準にあります。

2014年はリスク加重資産が増加する見通しです。それに対して、収益強化につながる資本増強を進める一方、一部の非中核的資産の売却を予定しています。

当行グループ最高経営責任者ピーター・サンズは、次のように述べています。

「2013 年は厳しい 1 年でした。業績への影響を軽減し変動する環境に適切に対応するために、短期的な課題には中核業務と戦略の強化によって対応してまいりました。市場および取引環境は、1 年前より変動幅が大きく、厳しいものとなっています。当行グループの業績のモメンタムは 2013 年下半期よりは改善していますが、2014 年上半期の業績は収益・利益の両面で引き続き厳しい展開になると予想しています。」

「しかしながら、当行グループのバランスシートは、その資本力と流動性を反映して盤石です。巨大な成長市場を結ぶ、ユニークなネットワークによって優れたポジショニングを保ち、それぞれの市場で顧客の皆様と非常に強いリレーションシップを維持しています。グループの目指すべき方向は明確で、それに向かってさらに邁進してまいります。」

「行員への報酬については業績を反映するペイフォーパフォーマンス方式を継続します。2013 年は厳しい年となったことから、賞与原資の減少を決定しました。幹部行員のボーナスの減少率を一般行員より高くします。減少後の賞与原資の規模は、株主への配当総額のおよそ半分となります。」

## 厳しい 1 年

2013 年度の税引き前利益は、前年比で 7%(5 億 6 千万米ドル)減少し、69 億米ドルとなりました。減益をもたらしたのは、業績悪化が続く韓国で、同国での営業利益はほぼ 5 億 3 千万米ドルの減少となりました。ほかにも、当行グループが事業を展開する市場の流動性が大幅に高まった、トランザクションバンキング事業の利鞘が著しく縮小し、グループの収益はほぼ 4 億米ドルの減少を余儀なくされました。

2013 年下半期は、米国の量的緩和の縮小効果への懸念と規制強化がフィナンシャルマーケット事業に影響を及ぼしました。下半期の収益は上半期を 5 億 6,400 万米ドルほど下回り、四半期ベースでは第 4 四半期の収益は前期比マイナス 19%でした。

プリシンプアルファイナンス事業は、同ポートフォリオにおける緩慢な実現収益の伸びと、その再評価額の低下により、2 億 6 百万米ドルの減収となりました。

以上の結果、グループの 2013 年度収益は 187 億米ドルと、前年比で 1%の減収となりました。しかし、収益が 1 億米ドルを超えた市場の数は 25、税引き前利益が 1 億米ドルを超えた市場の数は 17 と、それぞれ増加しました。グループにとって最大の拠点である香港での収益は 11%、税引き前利益は 16%と順調な成長を遂げました。

当行グループは引き続き徹底的なコスト管理を実施しており、2013 年の費用は 102 億米ドルと、前年比増加率をわずか 1%に抑えました。

減損費用は 25%増となりました。クレジットコストは、主にコンシューマーバンキング部門で無担保ローンの減損が続いたことから、35%上昇しました。2013 年半ばには、当行および金融業界の双方にとって深刻な問題であった韓国市場の現状を反映するため、韓国に関する営業権コストを計上しました。

当行グループのバランスシートは引き続き非常に健全な状態で維持されています。預貸率と流動資産比率はそれぞれほぼ 76%と 30%という高い水準にあります。

## ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門の収益は 2%の減少でした。この減収に対して、費用管理を厳格に行った結果、費用の増加幅はわずか 1%に抑えることができました。規制関連費用の増加は人件費の抑制によって相殺しました。

全収益の 86%を占める顧客収益は 4%の増加でした。コーポレートファイナンス事業は堅調に伸び、収益は前年比で 13%上昇しました。フィナンシャルマーケッツ事業の収益は前年比横ばいの 37 億米ドルを維持しました。スプレッドの縮小は取引量の堅調な拡大によって相殺される形となりました。

当行は、オフショア人民元債の 2013 年度グローバルアンダーライティング実績で 2 位となる一方、ロンドンでは中国農業銀行と共同で人民元建て決済サービスを開始しました。中国人民元の国際化は当行グループにとって引き続き事業拡大への大きな機会をもたらすことが期待されます。2020 年までに人民元建て貿易は現在の 4 倍に相当する 3 兆米ドル強に膨らむと予想されています。

減損費用は前年比 5%の増加となりました。それに含まれるクレジットコストは 12%増、その他減損費用は 19%の減少でした。その結果、税引き前利益は 56 億 4,300 万米ドルと 4%減でした。

## コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門の収益は前年比 2%増でした。費用は引き続き厳格に管理され、増加率はわずかに 1%に抑えることができました。クレジットコストは 53%増となりました。無担保ローンの減損リスクの回避に引き続き取り組んでいます。これらの結果、コンシューマーバンキング部門の営業利益は 11%減の 15 億 5 千万米ドルとなりました。

無担保ローンの伸び率は鈍化しており、2014 年下半期にはクレジットコストの増加率が穏やかな水準に落ち着いてくると予想しています。

韓国はコンシューマーバンキング部門の業績に、引き続き多大な影響を与えましたが、韓国の影響を除くと、同部門の収益は 5%増、税引き前利益は 8%増となっています。これは、香港・中東・南アジア・インド・アフリカにおける好調な業績が反映されています。

## 成長に向けた対応策

2013 年度を通して、当行グループを取り巻く市場環境が厳しさを増し、業績のモメンタムが後退する中で、業績への影響を軽減し変動する環境への適合を目指した対応策に取り組みました。グループ年次経営戦略会議の結論を踏まえて、2013 年 11 月に当行グループの今後の成長に向けた次のような優先課題を発表しました。

- 資産形成・貿易金融・顧客との信頼関係・投資姿勢・当行の主要市場にふさわしい経営基盤という 5 項目にわたる行動目標を設定
- 重要度の低い事業については、存続意義を評価する 5 項目テストを実施
- 経営戦略にそって事業を強化するために、地域・事業・機能別の再編と合理化を推進
- ポジティブな JAWS(収益の伸び率と費用の伸び率の差)及び強靱な資本力を含む、耐屈性の高い当行グループの財政的フレームワーク

発表以来、当行グループは、ホールセールバンキング部門の利益率が低い事業の中から 30 億米ドル相当のリスク加重資産を切り離しました。それらの事業については、今後、利益率の高い事業へと発展させていく方針です。

不採算事業または経営のコア戦略に合致しない事業については、戦略的妥当性・当行グループのブランド理念「Here for good」、及び持続的経済発展との整合性を厳しく評価する 5 項目テストをシステムティックに実施しています。その結果、小規模な事業の売却または再編が進行中です。具体的には、レバノンのコンシューマーバンキング、ジュネーブのプライベートバンキング、香港・深圳のコンシューマーファイナンス、韓国のコンシューマーファイナンスおよび貯蓄銀行の各事業が含まれます。

韓国での業績改善に向け、具体的な対策を進めています。2013 年には、韓国にある当行グループのリスク加重資産を 7%削減しましたが、2014 年には更なる削減を予定しています。韓国における関連会社の数を 9

社から 3 社に集約します。コスト削減のため、400 人規模の人員削減・支店統廃合に着手しており、支店数は 2011 年の 408 から 2013 年には 343 に減少しています。以上の結果、韓国での事業はスリム化が進み、採算性が確保できるものに移行できると確信しています。

ホールセールバンキング部門では、取引対象を国内取引限定の顧客から当行のグローバルネットワークを生かした取引を求める顧客中心にシフトするために資本の再配分を行います。コンシューマーバンキング部門では、無担保ローンの減損リスクの回避を進める一方、ウエルスマネジメント業務の強化を図ってまいります。しかし、韓国では 2014 年も厳しい状況が続くと予想しています。

## 見通し

当行グループは、2014 年業績については、穏やかな成長を見込んでいます。しかし、魅力にあふれる市場におけるグループの優位性は変わりません。現在進めている成長への対応策が、持続可能な採算のとれる成長をもたらすと確信しています。

詳細につきましては、下記担当者までご連絡ください。

Jon Tracey, Head of Media Relations  
(w) +44 20 7885 7613  
(m) +44 7730 051846  
[jonathan.tracey@sc.com](mailto:jonathan.tracey@sc.com)

Sarah Lindgreen, Deputy Head of Media Relations  
(w) +44 20 7885 8764  
(m) +44 7736 054338  
[Sarah.Lindgreen@sc.com](mailto:Sarah.Lindgreen@sc.com)

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行  
コーポレート・アフェアーズ部  
Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311  
[ca.japan@sc.com](mailto:ca.japan@sc.com)

## 財務実績ハイライト

グループ (単位:百万米ドル)	2013 年度	2012 年度	増減(%)
営業収益	18,671	18,783	(1)
費用	10,193	10,055	1
クレジットコスト	1,617	1,196	35
税引き前利益	6,958	7,518	(7)
<b>ホールセールバンキング</b>			
営業収益	11,492	11,672	(2)
税引き前利益	5,643	5,853	(4)
<b>コンシューマーバンキング</b>			
営業収益	7,179	7,021	2
税引き前利益	1,550	1,749	(11)

## 市場別税引き前利益

市場 (単位:百万米ドル)	2013 年度	2012 年度	増減(%)
香港	1,920	1,660	16
シンガポール	896	966	(7)
韓国	(13)	514	(103)
その他アジア太平洋諸国	1,145	1,217	(6)
インド	697	676	3
中東・南アジア	1,058	786	35
アフリカ	619	771	(20)
米州・欧州(英国を含む)	636	928	(31)
合計	6,958	7,518	(7)

### スタンダードチャータードについて

スタンダードチャータードはロンドン証券取引所、香港証券取引所、ムンバイ証券取引所、ならびにインド国立証券取引所に上場し、約86,000名の行員を擁する国際的な金融グループです。世界で最も活気に満ちた市場—アジア・アフリカ・中東地域において150年以上の歴史を誇り、ダイナミックな投資や貿易、そして資産形成を行うお客様を対象に、ビジネスを展開しています。グループの収益の約9割は、それらの地域で創出されています。私たちのブランドプロミスである「Here for good」は、このような当行の伝統と企業価値を反映しています。

### 日本におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜に初めて駐在員事務所を開設した1880年にさかのぼり、今年で134年目を迎えます。アジア・アフリカ・中東地域で投資事業を展開する日本の企業法人・金融法人のお客様向けに、多岐にわたる金融サービスを提供し、さらなる成長を続けています。

スタンダードチャータードグループHP(英語) <http://www.sc.com>

スタンダードチャータードグループ facebook(英語) [www.facebook.com/standardchartered](http://www.facebook.com/standardchartered)

スタンダードチャータードグループ Twitter アカウント @StanChart

スタンダードチャータード銀行在日支店HP(日本語) <http://www.sc.com/jp>

スタンダードチャータード銀行在日支店 HP(英語) <http://www.sc.com/jp/en/>

2013年度決算に関する、当行グループ最高経営責任者ピーター・サンズと最高財務責任者リチャード・メディングスのコメントは<http://investors.sc.com/en/video-fy13.cfm>でご覧いただけます。